

WEALTH GROWTH 「SAMURAI 25」

月間運用実績レポート（2025年12月）

■ 12月のパフォーマンス

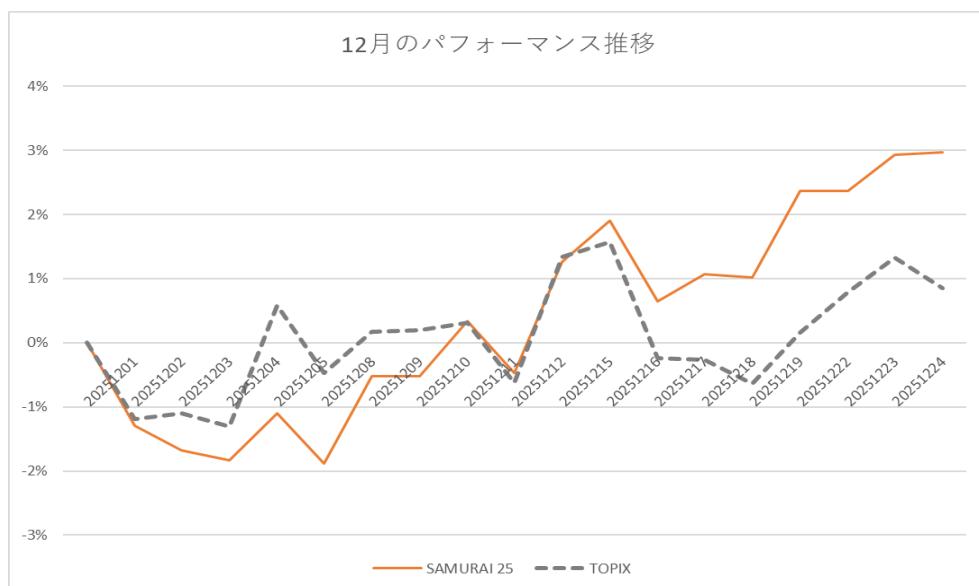
- ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	+3.61%
------------	--------

- 各指標の月間騰落率

TOPIX	+0.90 %	(配当込み)	+1.03 %
日経225	+0.17 %		
NYダウ	+0.73 %		
S&P500	△0.05 %		
NASDAQ	△0.53 %		

- 12月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	3.61%	13.31%	34.64%	40.72%	195.18%
TOPIX	1.03%	8.82%	20.84%	25.46%	119.48%
超過収益	2.57%	4.49%	13.81%	15.26%	75.70%

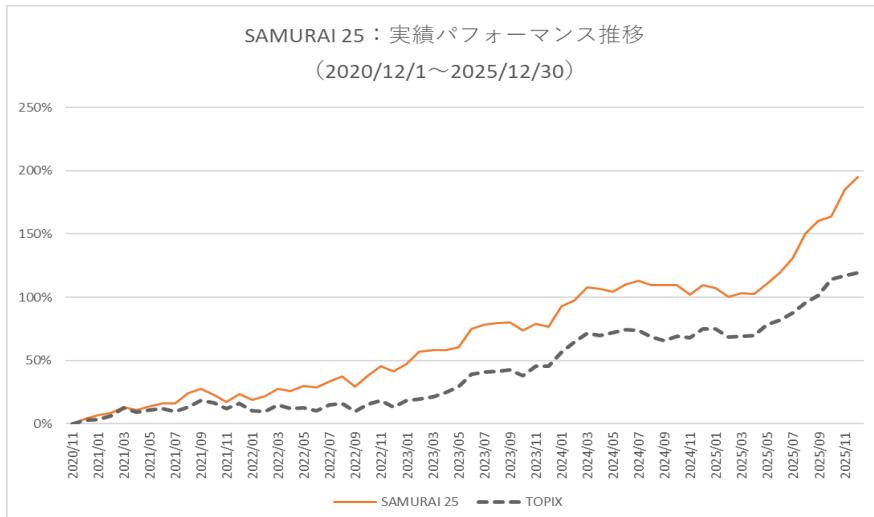
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

SAMURAI 25の12月の運用成績は+3.61 %（配当込み）、TOPIX +1.03 %（配当込み）、対ベンチマーク比で+2.57 %となり、11月に続きベンチマークを大幅にアウトパフォーム！！

➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2025年12月末までの運用実績です。



運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
累積リターン(2020/12-2025/12)	195.18%	119.48%

リターン（年率換算）	23.73%	16.72%
リスク（年率換算）	12.02%	10.62%
下方リスク（年率換算）	5.24%	5.39%
シャープ・レシオ	1.97	1.57
ソルティノ・レシオ	4.53	3.10

※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

■ 12月の市況概況

➤ 日本市場

12月の日本市場は、日銀の金融政策変更と財政拡張リスクに揺れる展開となりました。日銀は12月会合で政策金利を0.75%へ引き上げることを決定し、長期金利は約27年ぶりの高水準となる2.1%台まで上昇しました。しかし、為替市場では「材料出尽くし」や日米金利差の絶対水準から円安基調が継続し、輸出関連株の下支えとなりました。株式市場はAI関連の乱高下に巻き込まれつつも、企業の稼ぐ力の向上やデフレ脱却期待を背景に、日経平均株価は5万円台を回復して越年する底堅さを見せました。

・第1週（12月1日～12月5日）／日経225：+0.47% TOPIX：△0.47%

週初、日銀の植田総裁が「適切に判断したい」と利上げを示唆したことを受け、12月会合での利上げ観測が急速に高まりました。これにより長期金利が上昇し、日経平均は一時5万円を割り込む調整局面となりました。一方で、後半にかけては米国の利下げ観測を受けた米株高に連動し、ファナックなどロボット関連株（フィジカルAI）が買われるなど、自律反発の動きも見られました。法人企業統計では経常利益の増益が確認され、企業業績の底堅さが意識されました。

・第2週（12月8日～12月12日）／日経225：+0.68% TOPIX：+1.82%

米オラクルの決算急落を受けた「SaaSショック」が波及し、東京エレクトロンやソフトバンクGなど 値がさハイテク株が売られ、日経平均の重石となりました。一方、12月の日銀短観では大企業・製造業の業況判断DIが3期連続で改善し、米国の関税リスクへの過度な懸念が後退していることが確認されました。翌週の日銀会合を前に積極的な売買は手控えられましたが、三菱UFJなどメガバンクがラピダスへ2兆円規模の融資意向を示すなど、半導体国産化への資金供給の動きが好感されました。

・第3週（12月15日～12月19日）／日経225：△2.61% TOPIX：△1.17%

日銀は金融政策決定会合で、政策金利を0.5%から0.75%へ引き上げることを決定しました。植田総裁は「ゼロノルム（賃金・物価が上がらない常識）」の終了を宣言しましたが、市場は事前に利上げを織り込んでいたため、会見後はあく抜け感から円売り（円安）が進行し、1ドル157円台を付けました。債券市場では財政拡張懸念も相まって長期金利が一時2.1%まで上昇しました。

・第4週（12月22日～12月26日）／日経225：+2.51% TOPIX：+1.16%

政府は一般会計総額122兆円超となる2026年度予算案を閣議決定しました。高市政権による積極財政姿勢が鮮明となる中、長期金利の上昇圧力が継続しました。一方で、米国GDPの上振れを受けた米株高や、2025年の企業M&Aが過去最高額に達したことによる再編期待が日本株を押し上げました。東京都区部のCPIは2.7%上昇とインフレ持続が確認されました。

・第5週（12月29日～12月30日）／日経225：△0.81% TOPIX：△0.41%

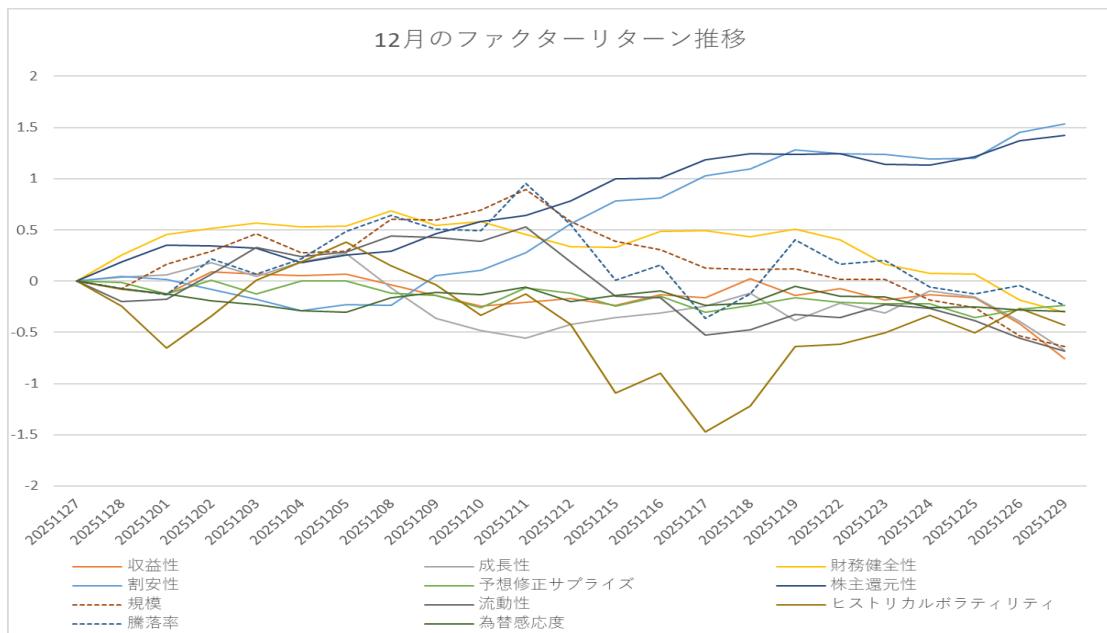
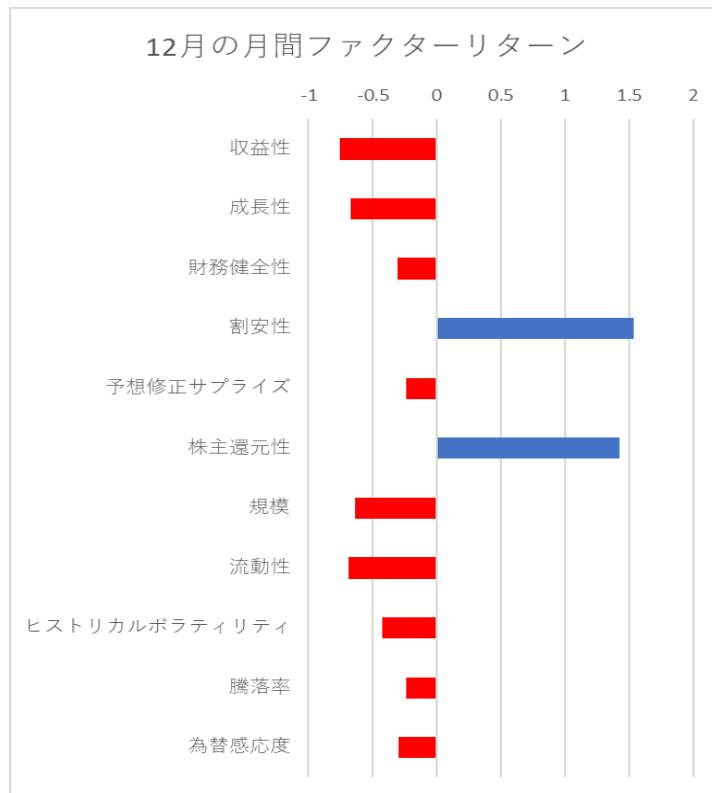
株式市場も残すところ2営業日となり、休暇ムードとなるなか、日経平均は5万円台を維持したまま年末を迎えました。来年は、「金利ある世界」での企業選別の重要性が意識されるとの見方もあるようです。

月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

12月は、小型バリュー株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、割安性ファクター・株主還元性ファクターが大きくプラスとなる一方で、規模ファクター・収益性ファクター・成長性ファクターがマイナスとなり、10月まで大型株が主導し日経平均及びTOPIX指数は市場最高値を更新しましたが、11月からは出遅れ傾向にあった好業績の小型バリュー株へ資金が向かい、12月は業績がさほどでもない小型バリュー株にも資金が向かったことが見て取れます。



➤ ファクター寄与度

その様な市況環境のなか、SAMURAI 25は、市場平均であるTOPIXを大きくアウトパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアウトパフォームした要因は、SAMURAI 25が持つバリュー要素の「割安・高配当」特性が大きくプラスに寄与、さらに、市場平均よりもアンダーウエートしているヒストリカルボラティリティファクターも大きくプラスに寄与したことです。

10月は、価格変動の大きな大型・値嵩株が強烈に市場を牽引する展開となりましたが、11月・12月は一転し、逆にそれらが大きく売られる展開となりました。

一方、ファンダメンタルズを重視した、本質を見極める冷静な資金によって、11月は好業績でありながらも割安に置かれていた銘柄群が買われ、さらに、12月は日本市場全体の底上げにつながる小型バリュー株にも資金が循環しています。

日本市場は好業績の銘柄も多く、また、株主還元を重視する動きも継続しており、来年3月の決算期に向けて、好業績の割安・高配当銘柄への期待がさらに高まるのではないでしょか。

➤ 個別銘柄寄与度

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度	
1	5714	DOWAホールディングス	1.9%	0.88%	
非鉄金属の製錬、環境・リサイクル、電子材料、金属加工、熱処理の5事業を展開。特に廃棄物処理や貴金属リサイクルなどの環境事業に強みがあり、半導体向け材料などの高付加価値製品の需要動向が注目されています。					
2	8515	アイフル	4.9%	0.68%	
大手消費者金融。無担保ローンを中心に、クレジットカード（ライフカード）、事業ローン、信用保証事業などを幅広く展開しています。貸付残高は増加傾向にあり、売上高は堅調です。大手銀行系以外の独立系としての機動力や、収益性の回復基調が評価されています。					
3	5076	インフロニア・ホールディングス株式会社	2.5%	0.40%	
前田建設工業、前田道路、前田製作所を傘下に持つ総合インフラグループ。建設から運営・維持管理までを一体で行うコンセッション事業（公共施設運営）に注力しています。日本道路の完全子会社化などを経て、事業ポートフォリオの多角化が進んでいます。インフラ運営の収益貢献が始まっており、従来のゼネコンの枠を超えた収益モデルの構築が進んでいます。					
4	2146	UTグループ	3.8%	0.33%	
製造業向け派遣・請負の国内最大手級。半導体や自動車産業を中心に、技術者派遣や製造工程の一括請負を行っています。製造現場の人手不足を背景に需要は底堅いですが、主要顧客である半導体や自動車メーカーの減産・調整局面の影響を受けやすい状況です。現在は採用コストの抑制と稼働率の向上に取り組んでいます。					
5	4503	アステラス製薬	5.3%	0.31%	
国内大手製薬会社。がん領域（主力薬「イクスタンジ」等）や泌尿器領域に強みを持ち、研究開発型製薬企業としてグローバルに展開しています。更年期障害治療薬「ベオザ」などの新薬の立ち上がりや、がん領域の次世代パイプラインの進捗が業績回復の鍵を握っています。					

■ SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

特色1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色2：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

特色3：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

特色4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX ±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AIにファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの下方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。

計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

ファクター		代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 1月8日時点の情報に基づき作成されています。

(提供：株式会社スマートプラス)

投資一任運用サービス WEALTH GROWTH（ウェルスグロース）

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。J トトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

＜業務内容について＞

J トトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【J トトラストグローバル証券株式会社】

- ・ 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- ・ 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- ・ 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- ・ 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- ・ 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- ・ 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- ・ 入出金に係る手続き
- ・ 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- ・ 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

＜手数料など諸費用について＞

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- ・ 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- ・サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

＜投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて＞

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があり、本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

[投資一任契約の媒介業者]



「トラストグローバル証券株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号
加入協会／日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会

[口座管理機関]



株式会社スマートプラス
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号
加入協会／日本証券業協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会